

(2) これまでの評価委員会意見への対応状況・自己評価及び平成25年度評価委員会意見

これまで（平成24年度）の評価委員会意見	対応状況	自己評価
1 一般会計繰入金		
<p>(1) 医業外収益が増えているが、市からの補助金か。今後もこれくらいの数字で推移していくのか。</p>	<p>ア 次のような取り組みを行うことで収益改善を図り、一般会計からの繰入金の縮減に努めます。</p> <p>(7) 医療・介護・福祉施設との連携を更に強化し、病床稼働率のアップに努めます。</p> <p>(イ) 診療報酬の加算等取りこぼしがないうよう、医療事務を徹底します。</p> <p>(ウ) 入院患者単価2万円を目標に、増収に努めます。</p> <p>(エ) 住民ニーズの高いリハビリ部門スタッフの増員を図ります。</p> <p>(オ) 医薬材料の在庫管理を一層徹底するなど経費削減を図ります。</p> <p>イ 耳鼻科や眼科などの特殊診療科目は地域に他の医療機関がないため、収益に関係なく継続します。</p>	<p>(7) 病床稼働率（H23）82.1% →（H24）96.2% 適正な病床利用ができました。</p> <p>(イ) 月1回保険査定対策委員会を開催して、査定や取りこぼし内容を検証し、対策を講じています。</p> <p>(ウ) 入院患者単価（H23）17,917円→（H24）18,778円 H24年度は、MRIの導入が12月になったことなどにより患者単価は微増となりましたが、今後とも適正な医療を提供し、単価増に努めます。</p> <p>(エ) 作業療法士を1名増員しました。今後、さらにスタッフの増員を図り、地域ニーズにあった医療提供に努めます。</p> <p>(オ) 月1回薬事審議会を開催し、ジェネリック医薬品への変更や採用薬品の整理を行い、経費の削減と医薬材料の適正管理に努めております。</p> <p>イ 耳鼻科や眼科の診療についても町内回覧などで周知に努め、耳鼻科は患者数がH23年度に比べ倍増しています。</p>
2 事業規模回形態		
<p>(1) 病院の待合室にはたくさんの患者さんが待っている。地域にはなくてはならない、頼りにされている病院。赤字でも存続すべき。</p> <p>(2) 過疎地域での病院の存在意義は大きい。</p> <p>(3) 本委員会では、病院の必要性については認めている。地域医療を守るために頑張っていたきたい。</p>	<p>ア 当院の存在意義は、一つは、急性期病院の後方支援病院、もう一つは安芸灘島しょ部の初期救急病院だと考えています。これからも地域のニーズに合った医療を提供できるように努めていきます。</p>	<p>ア 平成25年5月26日(日)下蒲刈中学校にて、『健康まつり』を開催し、地元住民や地元中学生と触れ合い、地域医療や病院への理解を深めていただきました。これからもスタッフ一丸となり、地域に愛される病院となるよう努めて参ります。</p>
3 収入増加確保対策		
<p>(1) 第2次改革プランに認知症外来を新設するとあるが、どのようなことを考えているか。内容によっては、地域連携病院である中国労災病院との連携も可能だ。</p> <p>(2) 院長がリハビリの専門医でもあることから、リハビリ部門を強化すべき。</p> <p>(3) 連携バスを増やし、地域連携病院である中国労災病院との患者の行き来を増やすべき。</p> <p>(4) リハビリ部門を強化し、院内にPT(理学療法士)OT(作業療法士)が増えると病院も活気づく。</p>	<p>ア 外来領域での患者の早期発見、早期診断・治療や地域での啓蒙活動などを行います。MRI(磁気共鳴画像装置)を導入後は、VSRAD診断(ブイエスラド:早期アルツハイマー型認知症(痴呆症)診断支援システム)なども積極的に行います。</p> <p>イ 高齢者の多い島しょ部では、脳卒中や整形などリハビリを必要としている患者が多いことや、少ない投資である程度の増収も見込めることから、リハビリ部門の強化は必ず必要だと考えています。また、地域連携バスも積極的に利用していきます。</p>	<p>ア 地域での認知症に関する講演会を行うと共にMRI導入後は、VSRADO診断も行っており、認知症外来の周知、充実に努めております。</p> <p>イ 作業療法士を1名増員しました。今後、さらにスタッフの増員を図り、地域ニーズにあった医療提供に努めます。</p> <p>また、中国労災病院が主催するICT委員会やHMネット(ひろしま医療情報ネットワーク)に参加し連携強化を図っております。</p>
4 その他		
<p>(1) 救急患者の搬送にあたっては、症状によって搬送先を決定する一方、本人の希望にもよるところが大きい。住民に信頼される病院になることが重要だ。</p> <p>(2) 研修医を積極的に受け入れることで、病院も活気づく。</p> <p>(3) 公立の病院である強みを生かして、保健師との連携強化により病院のPRを図ったかどうか。</p> <p>(4) 送迎バスを走らせてはどうか。</p>	<p>ア 地域住民に愛される、信頼される病院になるよう努めます。</p> <p>イ 平成23年度は7名、24年度は8名の研修医を受け入れました。今後も、積極的に研修医を受け入れていきます。</p> <p>ウ 検診後のフォローアップ、病院と保健師共同での講演会の開催など、積極的に連携していきます。</p> <p>エ 現在、一部地域限定で外来患者の送りを実施しています。公立の病院であるため、積極的にバスを走らせることはできませんが、引き続き住民サービスの向上に努めます。</p>	<p>ア 平成25年5月26日(日)下蒲刈中学校にて、『健康まつり』を開催し、地元住民や地元中学生と触れ合い、地域医療や病院への理解を深めていただきました。これからもスタッフ一丸となり、地域に愛される病院となるよう努めて参ります。</p> <p>イ 平成25年度も7名の研修医を受け入れました。今後も継続して受け入れて参ります。</p> <p>ウ 保健師と連携しての健康講演会や健康祭りの実施など積極的に保健師や保健所、支所などと連携して参りました。</p> <p>エ 従来の送りに加え、蒲刈診療所の出張診療所化に伴い、田戸地域で火・木曜の朝9時に迎えに行っています。今後も状況に応じサービスを充実させて参ります。</p>
5 平成25年度評価委員会意見		
<p>(1) プランは概ね達成されている。経営努力を評価する。</p> <p>(2) 中国労災病院、診療所との連携を積極的に行っている。これからも引き続き、安芸灘島嶼部の住民にとってなくてはならない病院を目指して欲しい。</p> <p>(3) 研修医を積極的に受け入れ、地域医療の現場を伝えて欲しい。</p> <p>(4) 後期高齢者の増加に対し、診療科目を増設する等、的確に対応している。引き続き、地域ニーズへ適切に対応し親しまれ、信頼される病院となるよう期待する。</p>		